

社会福祉法人いきいき福祉会
2022年度 いきいき福祉会 法人事業報告

2023年5月16日 管理者会議
2023年5月29日 理事会承認
2023年6月21日 評議員会

はじめに

コロナ禍での介護事業活動が丸3年となり、今期もグループホームこまくさの家でクラスターが発生しました。感染症初期の時期と比較すると加療の為の施設環境は整ってはきましたが、「認知症があるが故」の加療が困難である事は間違いありません。丸3年間の中で、私たちはこうした新興感染症と常に向き合い、考え・悩み・苦しみながらの日々を送り、職員体制を整え必死で介護事業活動を行ってきた事を最初に報告します。そしてこうした中でも、史上最悪の改悪が目論まれている2024年度医療・介護・障害のトリプル改定の改悪阻止に向け、介護ウェブでは駅頭での署名活動含め全力で取り組み、署名数は1800筆を超えました。加えて恒例となった法人教育委員会主催の事例検討会は初めてZoomでの開催となりました。全事業所・全職員は苦戦を強いられるコロナ禍であっても、学びと事業活動を最も重視して取り組んできた事も重ねて報告します。

東京商工リサーチによる報告では、介護事業所の倒産件数が過去最高と報告されています。コロナ禍での事業圧縮・利用控え・人員確保難等に加えて、水光熱費含む物価高騰による費用増が、事業運営にのしかかっています。この間繰り返し確認してきた「私たちは誰のための・何のための事業体であるのか」厳しい時こそ本質的議論を深め、地域に密着した法人・事業所として持続可能な組織であるようこれらの議論を引き続き継続し、事業活動を継続していきます。

I. 法人及び実施する事業の概要（追加・変更なし）

1) 第二種社会福祉事業及び利用者の定員

・グループホームこまくさの家	定員	18人
・グループホームこまくさの家・長房	定員	18人
・デイサービスセンターかっちゃんの家	定員	10人
・ヘルパーステーションいきいき	定員	152人

2) 公益事業及び利用者の定員

・ケアプランセンターいきいき	定員	180人
（地域包括支援センター業務委託・予防給付件数	予算定員	32人

3) 事業所職員状況（2023年3月31日現在）

- ・常勤職員数： 23人、非常勤職員 60人、登録ヘルパー 31人
- ・入職者：常勤 1人、非常勤職員 8人、登録ヘルパー 1人 *前期 9人
- ・入職者の経路：職業能力開発センター、職員募集の看板を見て、知人・友人関係、ホームページを見て
- ・退職者：7人（石川1人、長房1人、かっちゃんの家3人、登録ヘルパー2人）*前期15人
- ・退職の理由：すべて自己都合退職 高齢（70歳以上5人）、転職（2人）等

4) 職員確保の取り組み

- ・職員紹介、法人ホームページ、ハローワーク、都立多摩職業能力開発センター八王子校、退職者へのコンタクト、招聘等

5) 有給休暇取得状況 : 全職員 有給休暇消化率 平均 90.4%(前期 80.8%)

- ・常勤職員 消化率 98.1 % (前期 77.5%)
- ・非常勤職員 消化率 87.4 % (前期 88.5%)
- ・登録ヘルパー 消化率 86.9 % (前期 74.1%)

6) 法令遵守・業務改善に関する取り組み

- ・全事業所 感染及び災害における BCP 作成
- ・高齢者虐待防止指針作成
- ・2021 年介護報酬改定に伴い運営規定見直し (全事業所完了：高齢者虐待、ハラスメント等盛り込み)
- ・2021 年 10 月 ケアプランセンターいきいき・ヘルパーステーションいきいき 実地調査
- ・2022 年 1 月 法人指導監査、こまくさの家実地調査
- ・新設加算 LIFE 加算取得開始：こまくさの家、こまくさの家・長房 (2021 年 12 月開始)

7) 就業規則・労務関係

- ・第三の加算新設に伴う改訂：常勤は「処遇改善支援手当」2022 年 4 月～毎月@8,000 円支給。但し、対象外事業所 (ケアプランセンター・本部) 常勤は「法人特別支援手当」@4,000 円支給。非常勤職員は 2022 年 4 月～時給 50 円引上げ支給、夜勤専任者は夜勤 1 回@1,000 円加算して支給。

8) 事業所管理運営：定例管理者会議、役職者会議を年間予定に基づき開催

各事業所職場会議前に事業所管理者と打ち合わせを実施

グループホーム入居者判定会議や入居者・利用者対応困難ケースへの対応育成面談実施他

医療連携の強化に向けた検討・懇談会の提案・開催等

9) 理事会開催：2022 年 5 月 23 日、7 月 25 日、9 月 26 日、11 月 7 日、2023 年 1 月 23 日、
2023 年 3 月 15 日

評議員会開催：2022 年 6 月 15 日、11 月 16 日、2023 年 3 月 29 日

10) 社会福祉法人の公益的取り組み

- ・介護よろず相談所：法人 1 件、事業所 4 件 法人 HP や事業所へ飛び込みの相談有
家族のギャンブル依存症と借金、ショートステイ利用中に関する相談

認知症の方の迷子対応、元 GH 利用者家族よりご家族の今後の介護ケアについて

- ・フードパントリー：「NPO 法人フードバンク八王子えがお」連携継続

2022 年度利用対応数：74 件、初回利用者：48 名、公的制度利用無：32 名

性別：男性 50 名、女性：24 名

- ・利用者の特徴

殆どが単身生活者・メンタル疾患・負債あり・コロナ禍での離職や減収・家族疎遠

経済的理由により医療受診継続出来ず自分・認知症の母親の体調不良あり (診療所へ相談)

11) 法人中期計画 3 年目の実施年度

2022 年度は法人長期計画策定を計画したが、役職者会議の実開催が困難で継続課題へ。
次年度持ち越し課題とする。

12) その他

*新型コロナウイルス感染症への取り組み：法人指針継続作成 → 休業事業所：無

- ・休業補償対象者、・サージカルマスクやKN45 マスクを感染状況により使い分け
- ・役職者 LINE による緊急情報発信にてリアルデータでの注意喚起、・感染対策 BCP 見直し
- ・在宅勤務の導入：ケアプランセンターいきいき、ヘルパーステーションいきいき

*公益財団法人 JKA 補助金によるサーマルカメラ・CO2 モニター・サーキュレーターを継続活用

II. 経営活動（決算） ※2023年3月理事会承認の補正予算と対比

1. 2022年度損益の概要について

法人全体のサービス活動収益は 334,915 千円で予算差 752 千円、前年差 2,399 千円と予算・前年差共に超過達成しました。サービス活動費用は 332,773 千円で予算差▲2,199 千円、前年差 8,924 千円でした。

法人全体損益状況（予算・前年実績比較）							単位：千円	
	今年度実績	予算	予算差	予算比	前年度実績	前年差	前年比	
サービス活動収益	334,915	334,163	752	100.2%	332,516	2,399	100.7%	
サービス活動費用	332,773	334,972	-2,199	99.3%	323,849	8,924	102.8%	
サービス活動増減差額	2,142	-809	2,951		8,666	-6,525	24.7%	
サービス活動外収益	2,301	2,305	-4	99.8%	2,150	151	107.0%	
サービス活動外費用	1,989	2,003	-14	99.3%	2,055	-66	96.8%	
経常増減差額	2,454	-507	2,961		8,762	-6,308	28.0%	
特別増減差額	0	330	-330		-34	34		
当期活動増減差額	2,454	-177	2,631		8,728	-6,274	28.1%	
利益率(対収益比)	0.73%				2.62%			

当期活動増減差額は 2,454 千円・予算差 2,951 千円で黒字の結果となります。しかし前年差では▲6,308 千円となり、利益を大きく下回る状況です。利益率（経常増減差額率＝経常増減差額÷サービス活動収益）は 0.73% でプラスではあるものの厳しい結果に違いありません。中期計画目標で定めている 3% には届きませんでした。

2. 事業所のサービス活動収益について

事業所では両グループホームは共に入院及び退所の変動や、石川でのクラスターによる影響がありました。苦戦の中でも石川・長房とも維持管理費の値上げを年度事業計画に基づき下期から実施しました。ヘルパーステーションは「断らない」を徹底し、新規利用者を年々伸ばしていますが、新規・終了利用者の変化に伴い予算に僅かに未達です。ケアプランセンターは予算を大幅超過達成しました。デイサービスは苦戦を強いられ、予算を下回る結果となりました。

サービス活動収益（予算・前年実績対比）						単位：千円	
	こまくさの家・石川	こまくさの家・長房	かっちやんの家	ヘルパーステーションいきいき	ケアプランセンターいきいき	本部	法人合計
今期実績	93,275	94,406	24,620	74,466	48,147	0	334,914
予算	92,289	93,495	25,820	74,684	47,875	0	334,163
予算差	986	911	-1,200	-218	272	0	751
予算比	101.1%	101.0%	95.4%	99.7%	100.6%		100.2%
前年度実績	91,043	90,327	25,137	79,797	46,191	20	332,515
前年差	2,233	4,079	-517	-5,331	1,956	-20	2,400
前年比	102.5%	104.5%	97.9%	93.3%	104.2%		100.7%

3. 事業所のサービス活動費用

サービス活動費用（予算・前年実績対比）							単位：千円	
	こまくさの家・石川	こまくさの家・長房	かつちゃんの家	ヘルパーステーションいきいき	ケアプランセンターいきいき	本部	法人合計	
今期実績	94,925	89,302	25,335	64,965	37,613	20,633	332,773	
予算	95,915	88,300	27,647	65,256	37,691	20,163	334,972	
予算差	-989	1,001	-2,312	-291	-78	470	-2,199	
予算比	99.0%	101.1%	91.6%	99.6%	99.8%	102.3%	99.3%	
前年度実績	91,552	84,269	25,722	64,843	38,688	18,775	323,849	
前年差	3,373	5,033	-387	122	-1,075	1,858	8,924	
前年比	103.7%	106.0%	98.5%	100.2%	97.2%	109.9%	100.7%	

事業所別のサービス活動費用は、こまくさの家・長房と本部を除く事業所において予算を下回りました。職員体制や稼働減少による人件費減が要因となります。ケアプランの費用減は特に事務費が挙げられます。クラウド型介護ソフトによる郵送代削減も背景にあります。本部は第3四半期職員採用による人件費増が費用増に影響しています。丸3年に及ぶコロナ禍で介護事業の継続に関わる情報収集、情報共有はじめ、利用者、職員を守る日常的な様々な感染防止対策等の対応や各種補助金申請や感染対策強化のための補助金による機器購入、さらにクラスター対応に関わる様々な申請など本部業務は多岐にわたり、多忙を極めた。2022年度は改めて本部体制の脆弱化を意識した1年だった。これまでは何とか少数精鋭でやり繰りできたが、事業所ごとの平均年齢では最高齢職場であり、後継者の確保と養成を急ぎ本部体制の強化をはかる必要があるため招聘人事を行った。2023年度第一四半期をめどに引き継ぎを進めていく。

費用の内訳（下表）ですが、法人全体での費用合計は予算を下回り、人件費も同様の結果となっています。「第3の加算」と呼ばれる補助金は、下期に介護職員等ベースアップ加算へ切り変わりました。今年度はコロナ手当と介護職員等処遇改善支援補助金対応での費用1,640千円が発生しました。事業費・事務費はいずれも予算を下回る結果となりました。

サービス活動費用の内訳（事業所別）								単位：千円	
	こまくさの家・石川	こまくさの家・長房	かつちゃんの家	ヘルパーステーションいきいき	ケアプランセンターいきいき	本部	法人合計	予算	前年実績
費用	94,925	89,302	25,335	64,965	37,613	20,633	332,773	334,972	323,849
人件費	69,387	70,206	19,007	57,357	32,689	16,911	265,557	266,386	259,563
事業費	11,481	10,861	3,048	67	30	0	25,487	25,834	24,573
事務費	13,911	7,363	2,787	6,939	4,533	3,533	39,066	40,129	37,441
減価償却費	578	4,347	543	635	418	188	6,709	6,675	6,363

4. 当期活動増減差額（当期利益）

法人全体での2022年度当期活動増減差額は2,454千円の黒字で着地となりましたが、前年差で6,000千円を超えるマイナスとなり、当期利益前年度比は著しく減少する結果となりました。新型コロナウイルス感染者が発生したこまくさの家・長房をはじめヘルパーステーション、ケアプランセンターは及び本部は黒字、こまくさの家・石川とデイサービスかつちゃんの家は赤字となりました。かつちゃんの家とケアプランセンターを除く4事業所が予算を達成しました。

2016年度からの利益の推移は以下の通りです。新規・中止の利用者数が毎月10数件同時に発生するケアプランセンターとヘルパーステーションは「断らない」を継続しています。また両こまくさの家は入居者の入れ替わりに伴う待機者確保と退去後速やかな入居に向け、医療との連携をはじめ出来る努力を積み重ねてきました。加えてコロナ禍で厳しさを増すデイサービスは、確かに赤字ではありますが、ほぼ前年並みの利益結果に留まりました。全役職者は法人管理者会議に集中し、相互理解・相互支援の中で2022年度事業活動を行ってきた事をあらためて報告します。

当期活動増減差額推移（2016年度～2022年度）							単位:千円
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
GHこまくさの家・石川	-2,154	-744	745	322	-3,210	-4,177	-5,232
GHこまくさの家・長房	2,959	2,964	4,682	2,167	-3,553	27	-919
デイサービスかっちゃんの家	2,197	934	1,030	1,052	2,104	-2,117	-2,239
ケアプランセンターいきいき	-440	6	-469	406	3,468	5,182	8,229
ヘルパーステーションいきいき	4,918	5,686	2,864	-2,408	8,032	8,870	3,444
合計(本部含む)	9,811	9,209	10,262	275	7,774	8,728	2,454

5. 資産・負債の状況

資産状況（事業所別）							単位:千円
	こまくさの家・石川	こまくさの家・長房	かっちゃんの家	ヘルパーステーションいきいき	ケアプランセンターいきいき	本部	法人合計
流動資産	3,096	35,041	14,601	37,704	25,733	10,293	126,468
固定資産	5,288	61,406	5,127	16,851	8,517	462	97,651
資産合計	8,384	96,447	19,728	54,555	34,250	10,755	224,119
流動負債	8,531	10,163	1,897	7,369	3,413	1,835	33,208
固定負債	4,557	11,263	1,743	6,017	9,695	1,069	34,344
負債合計	13,088	21,426	3,640	13,386	13,109	2,904	67,553
基本金	14,000	13,000	4,500	0	0	11,770	43,270
純資産	-4,705	75,021	16,088	41,168	21,141	7,851	156,564

法人の総資産は 224,119 千円と前年度から▲1,956 千円減少しました。当期活動増減差額(利益)を確保したことにより流動資産の増加(9,262 千円)が総資産増の要因です。設備資金借入金は順調に返済しています。賞与引当金及び退職給付引当金は 100%計上しています。現金預金は前期より▲825 千円減少し月商倍率は 2021 年度決算での 2.84 倍から今期決算では 2.73 倍となり微減です。長期計画の推進、職員の処遇改善や事業の発展に向け引き続き月商倍率 3 倍を目指していきます。純資産は当期期首より▲608 千円減少し 156,564 千円となりました。

<2022 年度法人事業報告 別紙資料>

<事業所稼働の特長>

- ① こまくさの家：クラスター発生による入院変動の影響大
総職員数（常勤換算）：15.82 人（前年 15.87 人）
平均利用件数 17.05 件（前年 17.38 件）、平均介護度 2.58（前年 2.29）
平均入居実日数：518.8 日（前年 528.6 日）

- ② こまくさの家・長房：平均利用件数ならびに入居実日数で予算超過達成
総職員数（常勤換算）：16.42 人（前年 15.49 人）
平均利用件数 17.45 件（前年 17.39 件）、平均介護度 1.48（前年 2.05）
平均入居実日数：531 日（前年 529 日）

- ③ デイサービスセンターかっちゃんの家：平均利用件数予算に届かず・前年比より UP
総職員数（常勤換算）：4.93 人（前年 4.93 人）
平均利用件数：7.50 人（前年 7.03 人）、月平均利用回数 192.9 回（前年 181.5 回）

- ④ ケアプランセンターいきいきいき：管理件数予算超過達成
総職員数（常勤換算）：6.6 人（前年 6.62 人）
平均管理件数：255 件（前年 243 件）、
1 職員あたりの管理件数平均 38.62 人（前年 36.7 人）
平均介護件数：201 件（前年 207 件）、
平均予防件数：37 件（前年 30 件）

- ⑤ ヘルパーステーションいきいきいき：平均利用件数は予算超過・利用時間数は昨年超過
常勤職員：2.0 人（前年 2.0 人）
非常勤職員常勤換算：4.52 人（前年 5.33 人）
登録ヘルパー常勤換算：6.96 人（前年 7.26 人）
総職員数（常勤換算）：13.48 人（前年 14.59 人）
平均利用件数：145 件（前年 133 件）
平均介護利用時間数：1,412 時間（前年 1,370 時間）
平均時間 身体 529 時間（前年 624 時間）、生活 630 時間（前年 710 時間）
新規利用者総数：105 人（前年 47 人）
中止利用者総数：101 人（前年 52 人）

*身体・生活の時間数が限りなく接近し、利用時間数における身体の割合が

昨年 56%だったものが 2022 年度は 48%へ 8%減少。その為、提供時間数は一定程度確保できているものの生活支援が増加してくる事で、時間単価減へ影響あり。

新規利用者は増加しているが、同時に終了し施設・入院等の動きが激しく、これまでの「在宅療養」としての家族支援の在り方そのものが（家族の介護力）大きく変化している様子が示唆される。（平均介護度は 1.84 にて 2021 年度 1.95 より低くなっている様子もある。）

訪問介護事業は介護事業所の中でも極めて人材確保が困難な事業所であり、そこに事業内容のこうした激しい変化が押し寄せ、今後の動向の読みが非常に困難な状況にある。